

金澤市立第五十中學校  
新編

題字・篆刻

井口哲郎  
(第三回法文會部卒業)

## 序 文



金沢大学長

岡田晃

金沢大学は、昭和24（1949）年5月に新制大学として発足し、平成11（1999）年に創立50周年を迎えた。これを記念して、ここに『金沢大学50年史』（部局編・通史編の2巻）を刊行する運びとなった。

金沢大学の淵源は、遠く文久2（1862）年に設置された加賀藩の種痘所まで遡ることができる。その後、医学校などを経て金沢医科大学へと発展するが、その他の前身校である第四高等学校（明治20年）、石川師範学校（明治7年）、金沢高等工業学校（大正9年）も多彩な教育と研究を展開させてきた。それらの活動の蓄積を踏まえ、昭和24年に法文学部、教育学部、理学部、医学部、薬学部、工学部の6学部からなる総合大学として新制大学の歩みを開始したのである。

開学後の大学の主要な事柄として、昭和30年代では、ペンシルバニア大学との初の大学間交流協定締結や、昭和天皇・皇后の大学行幸啓、開学10周年記念式典挙行などが挙げられる。昭和40年代には、多くの大学と同様に本学でも大学紛争を経験し、その対応をめぐり全学的に揺れた。昭和50年代になると、大学入学者選抜共通第1次学力試験の実施導入や、法文学部の分離などがあり、昭和60年代から平成以降は、角間地区への総合移転計画事業の実施、大学院の整備充実、医学部附属病院の再開発事業など、あいついで大きな歴史的事業を積み重ね、北陸の基幹的総合大学としての発展の道を歩んできた。

これまでの金沢大学では、開学後の『金沢大学十年史』以外に本格的な大学史を編纂する機会を有してこなかった。したがって、前身校のまとまった沿革を捉えることもできず、新制大学発足に関する経緯など、多くの重要な歴史的事柄が確定されないままに置かれてきた。そこで、この誇るべき伝統ある金沢大学の歴史を、創立50周年の節目にあたって集大成することは誠に意義深いものがあると考え、その編纂事業に全学を挙げて協力してきた。

この事業を進めるために、金沢大学50年史編纂委員会が平成8年7月に組織され、

『金沢大学50年史』とともに『金沢大学 写真で見る50年』も含めて、この刊行の大業に臨んできた。その成果は、あいついで上梓されるが、特にこの『金沢大学50年史』は大学史としては初の企画であるCD-ROM版も備えるなど、いくつか意欲的な編集を敢行してきた。そうした新しい試みも含めて、私としては歴史的評価を大いに期待したいところである。

現在、日本の大学は「大学審議会答申」(平成10年10月)を受け、また「独立行政法人化」の問題など、かつてない改革の大きなうねりの中に置かれている。金沢大学においても、教養部改組に伴う教養教育機構の設置(平成8年)や、大学院自然科学研究科の区分制博士課程への改組(平成9年)など、大学教育や研究の質的向上改善につとめている。また、全学的な大学自己点検作業の成果として、『現状と課題』の創刊(平成5年)や、地域社会へ開かれた大学として、大学公式ホームページの開設(平成9年)なども行っている。本学の50年史は、まさにこのような状況を踏まえて、単なる学術研究書としての大学史ではなく、大学の歴史を大学自身が冷静に振り返り問題認識した自己点検史として編纂されたものである。“Plan-Do-See(計画・実行・確認)”という言葉がしばしば自己点検作業では用いられるが、その言葉の真意を示す大学の自治能力の高さをこれによっても証明できるものと自負している。

なお、この『金沢大学50年史』をはじめとした金沢大学創立50周年記念事業は、同後援会(会長 福光博氏)の資金援助によって可能となったことを付記したい。福光会長をはじめとする後援会の方々、本書の刊行に多大のご尽力を願った学内外の関係各位に対し、この場を借りて厚く感謝の意を表する次第である。

平成11年6月

## ごあいさつ



金沢大学創立50周年記念事業後援会

会長 福光 博

『金沢大学50年史』の発刊、心からお祝い申し上げます。金沢大学は第四高等学校、石川師範学校、石川青年師範学校、金沢高等師範学校、金沢医科大学（附属医学専門部、附属薬学専門部、附属結核研究所）及び金沢工業専門学校を包括して昭和24年5月、新制総合大学として発足以来50年の歳月が流れ、平成11年5月には創立50周年を迎えた。この50年目の節目にあたり、金沢大学が創立50周年記念事業の一つとして、『金沢大学50年史』（部局編、通史編の上下2巻）の刊行を計画し、本後援会が支援する形をとったことは至極当然のことである。ご承知のように金沢大学はこの50年の間に城内キャンパスから角間キャンパスへの第Ⅰ期総合移転事業を完了させ、更に第Ⅱ期移転事業や宝町地区再開発事業など大型プロジェクトが進行中であり、まさに日本海側の基幹総合大学として機能しようとしている。この機会にこれまでの歴史を検証し、未来に飛躍するための足場として50年史は不可欠であろう。

本書の刊行には岡田晃学長の強いリーダーシップと橋本哲哉50年史編纂委員会委員長を中心とする同委員会委員のなみなみならぬ熱意があったと聞いている。本書の紙面が単なる記録としてではなく、歴史書としての重みが加わっているのはこのことによるものであろう。また、第四高等学校などの大学前史についても整理、言及していただいております。私共、四高出身者にとって嬉しい限りである。編集者の諸氏に深く感謝申し上げます。

平成11年6月





金沢城  
(『金沢大学卒業記念アルバム』1992年から)



角間キャンパス







宝町・鶴間キャンパス

小立野キャンパス





旧法文学部（旧城内キャンパス，中島担氏提供）

教育学部（角間）



理学部（角間）



医学部（宝町）

大正期の金沢病院  
（現医学部附属病院，  
『Zum Andenken』1917年から）



医学部保健学科設置記念式典（1995年）



薬学部（宝町）



大正期の金沢高等工業学校  
（現工学部，『Zum Andenken』1924年から）



がん研究所（宝町）



旧一般教養部（旧城内キャンパス，中島担氏提供）



教育学部附属幼稚園  
（旧広坂キャンパス，『金沢大学教育学部附属幼稚園  
創立百周年記念誌 百年のあゆみ』1987年から）



附属図書館（角間）



安保問題をめぐる学生らのデモ行進  
(『金沢大学医学部卒業アルバム』1962年から)



1969年の大学紛争 (金崎肇氏提供)



文学部・法学部・経済学部創設記念祝賀会  
(『文学部・法学部・経済学部創設記念祝賀会記念写真集』1980年から)



金沢大学開学10周年記念祭（『開学10周年記念写真』1959年から）



医学部創立100年記念式典（1962年）

『金沢大学工学部五十年史』  
（1970年）





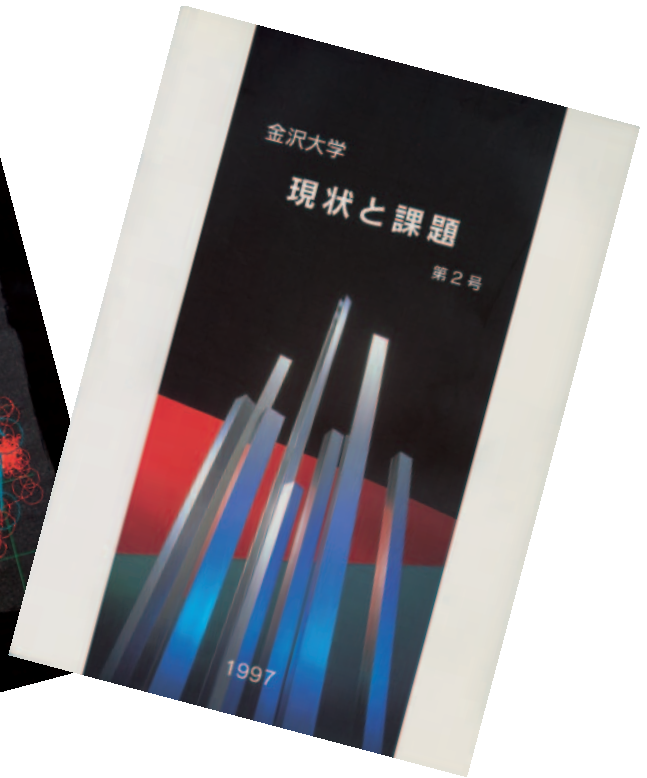
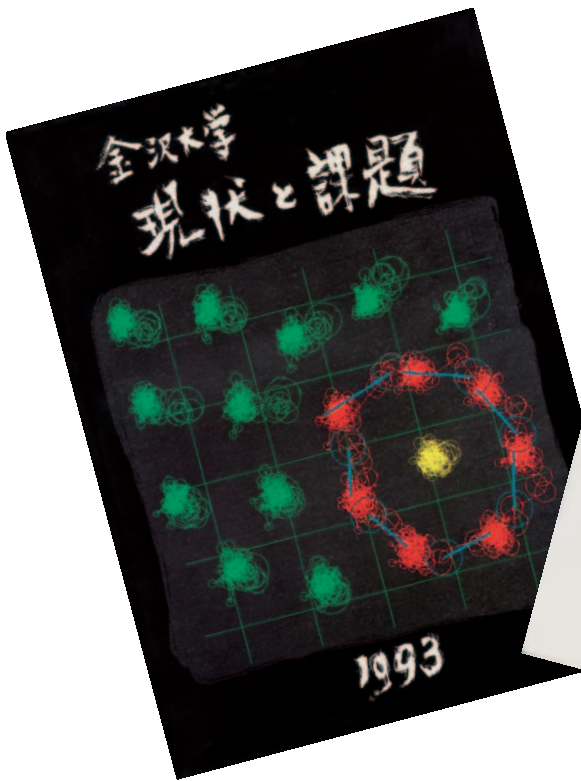


大学院自然科学研究科設立記念式（1987年）

総合教育棟の除幕式  
（角間，『アカンサス ニュース 創刊号』1996年から）



総合情報処理センター  
（角間，『金沢大学総合情報処理センター』1998年から）



『金沢大学 現状と課題』

アカンサス インターフェイス



金沢大学ホームページ  
 (『金沢大学広報資料 No.9』1997年から)